

# 中学校技術・家庭科におけるロールプレイングの 教育的効用について（第1報）

## 中学生のシナリオの分析をもとにして

### The educational effect of role playing in junior high school technical-home economics course ( the home field ) The 1 st report )

中 村 純 子\*・夫 馬 佳代子\*\*  
NAKAMURA Junko and FUMA Kayoko

#### 要約

中学校技術・家庭科（家庭分野）における「家族と家庭生活」の学習活動のロールプレイングでは、立場の違う人の役割を演技で表すことによって、相手の立場や気持ち、自分の気持ちを理解し、家族関係をよりよくする方法を考えることをねらいとしている。場面や役割の設定、シナリオ作成、演技、交流会等、指導内容が多岐に渡り、学習が思うように深まらない問題があった。

そこで、本研究では、設定場面とシナリオにみられる語彙との関係を比較検討した。その結果、設定場面によって、シナリオの深まりに大きな違いがみられる。家族とのかかわりに目を向けたシナリオを作成するためには、設定場面の吟味が十分に必要である。等を推察することができた。

キーワード：シナリオ，ロールプレイング，家族，家庭生活，中学校，家庭科

#### 1. はじめに

現代社会は、少子高齢化、核家族化に伴い、人間関係が希薄だと言われ、家族形態も多様化している。中学校技術・家庭科(家庭分野)内容B「家族と家庭生活」においては、項目(1)自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり、(2)幼児の発達と家族及び(3)家庭と家族関係については相互に関連を図り、実習や観察、ロールプレイングなどの学習活動を中心とするよう留意することとされているが、生徒個人のプライバシーとのかかわりもあり、扱いにくさが報告されている。

最近の家族をめぐる悲しい事件を聞くたびに、

思いやり支えあうべき最も身近な存在であるはずの家庭の機能が十分に果たされなくなってきている現状が感じられる。中学生の3年間は、義務教育の最終期間であり、次の世代を担う生活者を育てる大切な時期であると考えられる。そこで、これまでのロールプレイングの実践を分析し、生徒が現在の家族や家庭生活についてみつめ、これからの生活への展望を抱くことのできるロールプレイングの在り方について究明すべく、本研究を実施した。

その結果、シナリオにみられる発言に着目して分析したところ、設定場面とシナリオとのかかわりについて若干の知見を得たので報告する。

\* 岐阜大学教育学部・家政教育講座 家政教育専修（羽島市立中央中学校）

\*\* 岐阜大学教育学部・家政教育講座

## 2. 研究方法

### (1) ロールプレイングに関する文献調査

心理学, 中学校学習指導要領, 中学校技術・家庭科(家庭分野)の教科書におけるロールプレイングの扱いを明らかにする。

### (2) ロールプレイングを取り入れた授業事例及び分析

平成18年度実施のロールプレイング発表時のシナリオにみられる発言に着目して, 設定場面ごとに比較分析を行う。

## 3. 結果及び考察

### (1) ロールプレイングに関する文献調査

#### 1) 心理学におけるロールプレイングの定義

レイモンド・コルシニは, その著作の中で<sup>1)</sup>, ロールプレイングとは「~のつもりになる」プロセスである。セラピーにおいて患者(もしそれが相互作用の状況ならば患者以外の人々も含まれる)は, 限られた時間「あたかも~のように」(実演状況は極めて現実的であるなかで)演じていくことである。と, 定義づけている。また, ロールプレイングの用語についても, 下記のように四つの意味があるとしている<sup>2)</sup>。

1. 演劇上のもの。役者が台本のもと, ある場面を演じること。娯楽のためのもの。
2. 社会学上のもの。社会規範によって規定されたパターン。
3. 偽装的なもの。真の緊張や感情や動機と全く逆の行動を取ることによって, 人々をはぐらかそうとする偽の行動。
4. 教育的なもの。自己理解や技能の向上, 行動の分析のために, 人々の前で, ある人がどう振る舞うのか, 振る舞うべきかを示すように, 想像上の場面のなかで演じること。

心理療法で用いられる場合, ロールプレイングは上記の4番目の範疇に含まれる。

心理療法で用いられるロールプレイングは教育的なものであることから, 技術・家庭科(家庭分野)におけるロールプレイングも, この「教育的なもの」に包含されると考えられる。ただ, 技術・

家庭科(家庭分野)で用いられるロールプレイングは, 「家族と家庭生活」の内容を指導する際を中心となる学習活動の一つであることから, そのねらいは, 家庭や家族の基本的な機能について理解させるとともに, 家族関係をよりよくする方法を具体的に考えることができるようにすること<sup>3)</sup>である。その点から考えると, 心理療法のロールプレイングに, 技術・家庭科(家庭分野)におけるロールプレイングが包括されていると考えることができると思われる。

### 2) 中学校学習指導要領におけるロールプレイングの扱い

「家庭生活」の領域が新設されたのは, 平成元年改訂時である。家庭の機能の変化等に対応するために「家庭生活」の領域が新設され, 同時期に, 情報化の進展に対応するために「情報基礎」も新設された。「家庭生活」の領域は, すべての生徒に履修される領域として4つ挙げられたものの一つであり, 新設の領域でありながらも, この領域の重要性が高いものとして評価されていることが分かる。

新設時の解説書によれば<sup>4)</sup>「家庭生活」の領域は, 家庭における自分と家族の生活を学習の対象とし, 家庭の機能, 家庭生活の意義, 家族の人間関係の在り方を理解させるとともに, 家庭における自己の立場を自覚させる。また, 家庭生活に必要な経済と仕事に関する基礎的な知識や技能を習得し, 家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることをねらいとしている。

とくに生徒の発達段階が, 家族から独立したいと願う心が芽生える時期であることを考慮し, 家族の生活を見つめ, 家族とのあたたかい人間関係について考えさせ, 自分の生活と家族の生活との関連が理解できるようにすることが必要である。とされ, 目標にある, 「実践的・体験的な学習を通して」との記述から, 単なる理論の学習をするものではないとして, この領域の実践的・体験的な学習を, 実習をはじめとして, 調査, 観察, 事例研究やシミュレーション, ロールプレイングなどが考えられるとしている。つまり, ロールプレイングは, 「家庭生活」の領域における「実践的・体験的な学習」をめざすために, 取り入れられた活動であると考えられることができる。

平成10年の改訂では<sup>5)</sup>, 11領域から「技術」と「家庭」の2領域に再編され, 従前の「家庭生活」

は、家庭分野 内容B「家族と家庭生活」において、すべての生徒に履修させる(1)自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり、(2)幼児の発達と家族、(3)家庭と家族関係及び、(4)家庭生活と消費の4項目と、選択して履修させる(5)幼児の生活と幼児との触れ合い、(6)家庭生活と地域とのかかわりの2項目に構成された。

内容の取り扱いとして「(1),(2)及び(3)については相互に関連を図り、実習や観察、ロールプレイングなどの学習を中心とするよう留意すること。」とある。(3)家庭と家族関係の学習については、「生徒の生活にかかわりの深い課題を取り上げ、物語を利用したり、ロールプレイングなどの学習活動を通して具体的に扱うようにする。」とある。また、指導に当たっては、「生徒個人のプライバシーに十分配慮し、例えば、物語などから事例を取り上げることなども考えられる。」としている。

表1は、中学校学習指導要領において「家庭生活」の領域の新設前後の変遷をまとめたものである。

ロールプレイングの学習活動は、「家庭生活」の領域の新設に伴って取り入れられた学習活動である。また、その学習では、生徒の生活にかかわりの深い課題を取り上げるのだが、生徒のプライバシー保護の観点から、生徒一人ひとりの家庭を直接取り上げるのではなく、物語などから事例を取り上げて、その事例を通して学ぶという形がとられる。

そこで次に、教科書では、どのような事例が取り上げられているのかを検討してみることとする。

表1 中学校学習指導要領における「家庭生活」の領域の扱いの変遷


改訂の年次	指導内容にかかわって
昭和51年12月 17領域	<p>技術系列：A 木材加工〔1, 2〕, B 金属加工〔1, 2〕, C 機械〔1, 2〕, D 電気〔1, 2〕, E 栽培</p> <p>家庭系列：F 被服〔1, 2, 3〕, G 食物〔1, 2, 3〕, H 住居, I 保育</p> <p>男子：9つの技術系列の領域の中から5領域, 8つの家庭系列の領域の中から1領域 女子：8つの家庭系列の領域の中から5領域, 9つの技術系列の領域の中から1領域を含めて、男女のいずれにも7つ以上の領域を選択して履修させるように定めている。</p>
平成元年3月 情報基礎と家庭生活が新設される	<p>A 木材加工, B 電気, C 金属加工, D 機械, E 栽培, F 情報基礎 G 家庭生活, H 食物, I 被服, J 住居, K 保育</p> <p>AからKまでの11領域のうちから7領域以上を履修させるものとする。その際、「A木材加工」「B電気」「G家庭生活」及び「H食物」の4領域については、すべての生徒に履修させるものとする。「A木材加工」および「G家庭生活」は、第1学年で履修させることを標準とする。</p>
平成10年12月	<p>「技術」と「家庭」の2領域に再編する。</p> <p>技術：A 技術とものづくり B 情報とコンピューター</p> <p>家庭：A 生活の自立と衣食住 B 家族と家庭生活</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> <p>(1)~(4)はすべての生徒に履修させる (5)(6)は、選択して履修させる。</p> </div> <p>(1)自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり (2)幼児の発達と家族 (3)家庭と家族関係 (4)家庭生活と消費 (5)幼児の生活と幼児との触れ合い (6)家庭生活と地域とのかかわり</p>

### 3) 中学校技術・家庭科(家庭分野)の教科書におけるロールプレイングの取り扱い

「家庭生活」の領域の新設以降に発行された中学校 技術・家庭(家庭分野)の教科書について、ロールプレイングの活動にかかわる内容の記述に

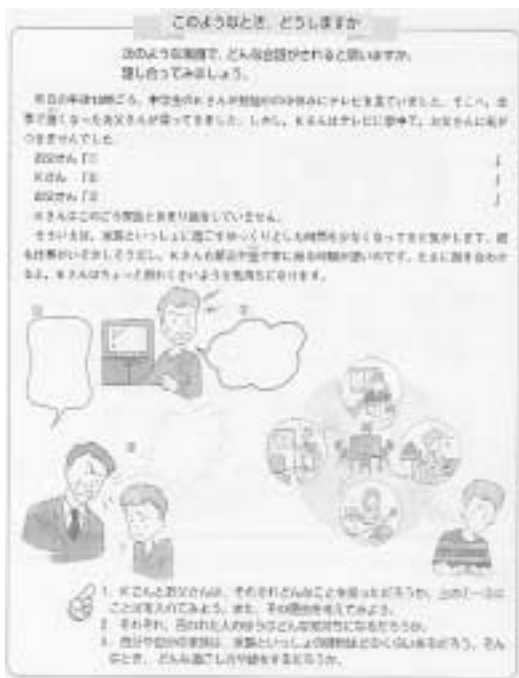
ついて、開隆堂と東京書籍の2社で比較してみた。平成13年検定済みの教科書は、現在中学校3年生が使用しているものであり、平成17年1月検定済みの教科書は、現在中学校1,2年生が学習しているものである。

表2 教科書におけるロールプレイングの取り扱いの比較

検定年	平成4年検定済み	
発行者	開隆堂 <sup>6)</sup>	東京書籍 <sup>7)</sup>
ロールプレイングの言葉の記載の有無	 <p>ロールプレイングの活動についての記述はみられない。しかし、吹き出しのあるイラストがあり、どんな言葉や気持ちが考えられるか話し合おう。との投げかけがある。</p>	<p>ロールプレイングの活動についての記述はみられない。</p> <p>また、教師用の指導書には、家族とその中での問題について、アンケートをとりまとめている。その中から「わたしの家族」として、家族と家庭生活のシナリオをつくり、ロールプレイングするとよい。との記載がある。</p>

検定年	平成8年検定済み	
発行者	開隆堂 <sup>8)</sup>	東京書籍 <sup>9)</sup>
ロールプレイングの言葉の記載の有無	<p>ロールプレイングの活動についての記述はみられない。家族の構成は年月とともに変化することを示すイラストや、子ども、親が互いに対してどのような思いでいるのがイラストとともに記載されている。</p>	<p>ロールプレイングの活動についての記述はみられない。</p>

検定年	平成13年検定済み	
発行者	開隆堂 <sup>10)</sup>	東京書籍 <sup>11)</sup>
ロールプレイングの言葉の記載の有無	<p>ロールプレイングの言葉：無し このようなとき、どうしますか</p>	<p>ロールプレイングの言葉：有り 実習例 演じて考えよう ロールプレイング</p>
活動にかかわっての説明の記載	<p>次のような場面で、どんな会話がされるとおもいますか。話し合ってみましょう。</p>	<p>ロールプレイングとは、立場のちがう人の役割をとって「演技」をすることによって、相手の立場や気持ちを理解したり、自分を理解するための一つの方法です。P172のそれぞれの人の役になって、家族が理解し合うためには、どんなことが大切かをグループで考えてみましょう。</p>
場面役割の種類	<p>1場面(吹き出し入りのイラストで場面を紹介し、吹き出しの内容やその気持ち、言われた気持ちを考える。)</p>	<p>1場面(漫画で場面を紹介し、その後を考えてみましょうと投げかけている)</p>
場面の内容	<p>昨日の午後10時ごろ、中学生のKさんが勉強中の中休みにテレビを見ていました。そこへ、仕事で遅くなったお父さんが帰ってきました。しかし、Kさんはテレビに夢中で、お父さんに気がつきませんでした。</p> <p>お父さん 「 」 Kさん 「 」 お父さん 「 」</p>	<p>父と子3人(兄、妹、弟の場面)。父が食事を作り、妹と弟が食事の準備をして食卓につく。兄は読書に向かい、妹から準備を一緒に手伝うように言われても一向に読書をやめず、食卓につこうともしない。次頁で、ロールプレイングの手順を具体的に説明している。</p>



資料1（平成13年検定済み 開隆堂 166頁）

平成13年検定済み 開隆堂 166頁

開隆堂出版の教科書の扱いは、東京書籍出版のものとは異なり、平成13年検定済みのものに、「ロールプレイング」の言葉の記載はみられないが、吹き出しのあるイラストがあり、具体的に言葉や気持ちを考える活動が紹介されている。（資料1）これは、平成4年検定済みの教科書でもみられた形式である。この吹き出しのあるイラストの形式は、平成4年検定済みの教科書にみられるものの、平成8年検定済みの教科書ではみられず、平成13年検定済みのものに再び記載されている。

「次のような場面で、どんな会話がされると思えますか。話し合ってみましょう。」との投げかけがあり、父と中学生の立場で会話を考えるというものである。場面設定は、中学生が勉強中の中休みにテレビを見ていたところ、仕事で遅くなった父が帰宅したというものである。イラストからは、子どもに小言を言う父親、それに言い返す中学生、再び怒る父親を捉えることができ、中学生にとって、身近な場面が取り上げられている。

また、開隆堂出版の教科書では、資料1の頁の前に、様々な家族の形態を取り上げ、その家族になったつもりで気持ちを考えるというものが2頁に渡り紹介されている。（資料2）

家族の構成の変化については平成8年検定済みの教科書でも取り上げられており、その流れを汲



資料2（平成13年検定済み 開隆堂 164, 165頁）

んで、更に広げたものであるといえる。

平成13年検定済み 東京書籍 172～173頁

東京書籍出版の教科書では、平成4年、平成8年検定済みのどちらにもロールプレイングの活動にかかわる記述はみられない。吹き出しのあるイラストもみられない。

ところが、平成13年検定済みの教科書には、家族の風景を描いたイラストに1頁（資料3）、また、ロールプレイングの活動に1頁（資料4）を割いて紹介されている。

資料3で紹介されている場面は、父親が食事を準備し、妹が本を読んでいる兄に手伝うように呼びかける。父、弟、妹が食卓につくのだが、兄は本を読み続け、「この続きを考えてみましょう」と、投げかけている。次の頁では、「ロールプレイング」の言葉そのものが明確に示されているだけでなく、ロールプレイングの活動の方法や目的に



資料3（平成13年検定済み 東京書籍 172頁）



資料4 (平成13年検定済み 東京書籍 173頁)

まで言及した記述がみられる。また、授業の際、どのように活動を進めていくとよいか、その手順についても、イラスト入りで詳しく説明されてい

る。平成4年、平成8年検定済みのどちらにもロールプレイングの活動にかかわる記述が無かった同社としては、生徒にも指導者にも活動が円滑に行われるように、詳しく記述がされているのではないかとと思われる。

「ロールプレイング」の活動の具体的な手順が以下のように示されている。登場人物、役割、場面を決めた後、「スタート」のかけ声とともに、だれかのせりふに続けて、思いついたせりふを自由にいい合う。との記載があり、時間をかけてせりふを考えるのではなく、思いついたせりふを出させ、それについて互いの感想を出し合うことで、それぞれの家族の気持ちを考えるという、即興性に重きを置いていることが伺われる。このことは、平成17年検定済みの同社の教科書の記述にも「即興で演じることによって」という記述があることから分かる。では、平成17年検定済みの教科書を比較してみる。

表2-1 教科書におけるロールプレイングの取り扱いの比較(平成17年検定済み)

検定年	平成17年検定済み	
発行者	開隆堂 <sup>12)</sup>	東京書籍 <sup>13)</sup>
ロールプレイングの言葉の記載の有無	ロールプレイングの言葉：有り 自分だったら、どうする？	ロールプレイングの言葉：有り 実習例 演じて考えよう ロールプレイング
活動にかかわっての説明の記載	「ロールプレイングのしかた」として、手順を説明している。 5、6人のグループに分かれ、登場人物やその役割、場面などを決める。 シナリオ有り、無しどちらも紹介し、演技後、役割を離れて話し合ってみる。	ロールプレイングの言葉の説明がある。 具体的な活動の手順について説明はないが、ロールプレイングの言葉の説明に「立場のちがう人の役割を即興で演じることによって…」との記述がみられる。
場面役割の種類	1場面(漫画で場面を紹介し、その後を考えてみましょうと投げかけている)	3場面(食事、部屋の片付け、手伝い)を紹介し、そのうち食事場面は、幼児の親と、中学生の親の2役、部屋の片付け、手伝い場面では、中学生役を紹介している。
場面の内容	4コマ漫画の形式 中学生が帰宅する 家には誰も居ない 中学生がテレビを見ているところへ父が帰宅する 帰宅した父が食卓の様子をみて「朝食を食べたままか…」とつぶやく。	もしもあなたが、子ども(4、5歳児)の親だったら… 食事の場面：子ども「このおかず、何？おいしくなさそう。」 父親または母親「 」子ども「 」 もしもあなたが、中学生の親だったら…(以下 同様) もしもあなたが、次のようにいわれたら… 母親「部屋を片付けなさい！」中学生「 」 父親「今日は、いっしょに昼食をつくらう。手伝ってくれ。」 中学生「 」

平成17年検定済み 開隆堂 182～183頁

ロールプレイングの言葉の記述が無かったこれまでとは異なり、ロールプレイングの活動の手順が具体的に示されているだけでなく、ロールプレイングの説明も明記されている。（資料5）場面設定に1頁，その後のロールプレイングの活動にかかわって1頁とスペース的にも増えている。この構成は、平成13年検定済みの東京書籍のものとよく似ている。（資料3，4）ただ，示された手順が，東京書籍と大きく異なるのは，東京書籍は，「思いついたせりふを自由にいい合う」という即興性を重視していたが，開隆堂は，その部分の流れを，「思いついたままセリフを言って演技するもの」と，「シナリオをつくるもの」との2つを紹介している点である。特に，「シナリオをつくる」方は，「登場人物やその役割，場面などを決めた後，どのような展開にしたいかを考えて，セリフを決めていく。」としてある。ロールプレイングの言葉の説明にも，「立場がちがう人の役割を演技で表すことです。」とあり，必ずしも即興性に重きを置いていないことがわかる。

平成17年検定済み東京書籍 176頁



資料6（平成17年検定済み 東京書籍 176頁）

一方，平成17年検定済みの東京書籍の教科書（資料6）では，これまでの2ページを割いての記載が1頁に削減され，場面の設定もイラストではなく，文章で示してある。ロールプレイングの手順にかかわる説明は記されていないが，生徒が話し合う様子から，場面や役割を設定する必要性が理



資料5（平成17年検定済み 開隆堂 182，183頁）

解できるようになっている。また，小さくではあるが，ロールプレイングの説明があり（資料7）

ロールプレイング 役割(ロール)演技ともいう。立場がちがう人の役割を母親で演じることによって、相手の立場や気持ちを理解したり、自分を逞(たくま)しくするための方法。

資料7

「立場のちがう人の役割を即興で演じることによって」と，平成13年検定済みの教科書同様，演じる際の即興性を重んじていることが伺われる。

現在中学1，2年生が使用している教科書は，開隆堂，東京書籍のどちらも，「家族と家庭生活」の指導において，ロールプレイングの活動が取り上げられている。言葉の明記は，東京書籍の方が早く，平成13年検定済みの教科書からである。言葉の明記はないものの，開隆堂では，平成4年検定済みの教科書に吹き出しのあるイラストを載せ，ある場面において役割演技をする活動を取り入れている。「家庭生活」の領域が新設された平成元年以降，いち早く対応した動きと言える。

ロールプレイングの活動の手順としては，東京書籍の「思いついたせりふを自由にいい合う」即興性を重視する流れと，「展開を考えセリフを決める」シナリオ作成の流れの2通りがある。どちらも，演技終了後に話し合いを位置づけ，家族の立場や気持ちについて話し合うことを知らせている。

## (2) ロールプレイングを取り入れた授業事例及び分析

### 1) 家族を題材とした授業におけるロールプレイングのねらい

物語などから事例を取り上げるとは、具体的にどんな場面であるのか、その場面の中で、家族がどんな会話をしているのか、どんな状況なのかといったことを、あらかじめ提示するということであると考える。そして、その中において、家族が互いに立場や役割を理解し協力して家族関係をよりよくするために、家族の一員としてどのようなことができるのかを具体的に考えさせ、実践に結び付くようにすることをねらいとしている。ここで大切なことは、学習者である中学生一人ひとりが、自分自身は、家族に支えられながら今日まで生活し、心の安定や安らぎを得てきたことを実感し、また、今後、自分が成長していく過程で、家庭や家族の機能が変化する中でも、それらは基本的な機能であることを理解することである。よって、ロールプレイングで、自分と等身大の中学生を演じるだけでなく、様々な役割を演じることは、これまでの自分自身の成長や、これからの自分自身の在り方に目を向ける、過去、現在、将来と時間的な展望をもって考える上で有効な手立

てであると考えられる。

### 2) ロールプレイングを取り入れた授業事例の比較

ロールプレイングの活動を進めるためには、場面の設定、役割の分担、シナリオ作成、発表、交流会といった段階がある。平成17年度と平成18年度の実践における違いを下記の表3にまとめてみた。

授業の流れとしては、どちらもほぼ同じであるが、大きく異なる点は、場面の設定である。平成17年度の実践では、各班共通であり、親から子への買い物の依頼の場面である。

また、平成18年度実践は、東京書籍の教科書に紹介されている3場面(資料6)より、班の話し合いにより、場面を決定した。3場面とは、食事場面(おかずに文句を言う中学生)、掃除場面(部屋の掃除を言いつけられる中学生)、手伝い場面(昼食の手伝いを依頼される中学生)である。

班とは、学級における生活班であり、場面選択、役割の設定と分担は、班での話し合いによって決めた。そのため、どの班も、同じ設定というわけではない。

表3 ロールプレイングを取り入れた授業実践の違い

	平成17年度の授業実践	平成18年度の授業実践
課題	家族が互いに気持ちよくなるようなコミュニケーションの在り方を考えよう	家族が互いに気持ちよくなるようなコミュニケーションの在り方を考えよう
場面	全班共通 親から子(中学生)への買い物の依頼	提示された3場面より選択 食事場面(おかずに文句を言う中学生) 掃除場面(部屋の掃除を言いつけられる中学生) 手伝い場面(昼食の手伝いを依頼される中学生)
学習の単位	学級の生活班	学級の生活班
役割の設定	班単位の話し合いにより決定	班単位の話し合いにより決定
シナリオ作成	班単位の話し合いにより作成(1時間)	班単位の話し合いにより作成(1時間)
発表前練習の有無	シナリオが完成した班より練習	シナリオが完成した班より練習
発表の形態	1班ずつ順に発表, 全班が発表	1班ずつ順に発表, 全班が発表
交流の形態	一人ひとりがプリント記入し, その後, 課題にかかわって感想交流	一人ひとりがプリント記入し, その後, 課題にかかわって感想交流
時間数	全4~5時間	全4~5時間



場面設定が異なるのは、平成18年度入学の生徒から教科書が、開隆堂から東京書籍に替わり、教科書に紹介された場面を取り入れたためである。どちらもシナリオを作成してから役割演技をする流れをとった。確かに思いついたまませりふを自由に言い合うと、生徒の本音が出やすいと考えられる。ここで忘れてはならないのは、誰もが思いついたせりふを自由に言い合えるかという問題である。誰でも比較的好む、自分と等身大の中学生の役割については、思いついたまませりふを言いやすいが、必ずしも全ての生徒が、その役割を演じられるとは限らない。また、活動の単位は、生活班で行うことが多く、思いついたまませりふを言い合う展開では、表現することが苦手な生徒は黙ったままでいることもあると思われる。

シナリオを作成するよさは話し合いの段階で、それぞれの立場から様々な考えが出されることである。「家族が互いに気持ちよくなるようなコミュニケーションの在り方を考えよう」のねらいのもと、「このせりふだと、ますます反抗するだけだから、もっとこうしたら？」とか、「僕の家だと、そんなことはないよ」など、生徒一人ひとりが、班で設定した役割の立場で考えたり、現在の自分の家族と比べたりしながら、展開を考えることができる。自分が担当する役割のせりふを、自分だけでなく班の仲間全員で考え合うところに、意味がある。つまり、今、現在の中学生の立場だけの考えでなく、親の立場、祖父母の立場、兄弟姉妹等、様々な家族の立場で考え、「家族が互いに気持ちよくなるために、どんなコミュニケーションをとるとよいのだろう」とのねらいに向かって共に学び合える点が、シナリオ作成の大きな利点ではないかと思われる。

### 3) ロールプレイングのシナリオにみられる中学生の家族観

ロールプレイングでは、演じているのは、同学年の生徒同士であるが、班での話し合いによって、普段の生活と等身大の中学生役を演じることもあれば、自分より年下の小学生や幼児の妹や弟、また年上の兄や姉、父や母、祖父母という役割を演じる時もある。取り上げた場面において、「家族が互いに気持ちよくなるようなコミュニケーションの在り方を考えよう」の課題のもと、誰がどんな言葉や態度をとるのかを話し合って決定したものがシナリオである。

自分とは異なる役割を演じる一つ一つのセリフには、自分からみた家族への捉えを把握することができる。自分からみた家族の捉えとは、自分が家族をどのように見ているか、思っているか、捉えているかということである。一方、中学生役に向けられるセリフには、自分は、家族からどのように見られているか、思われているか、捉えられているかという、他者からみた自分という気持ちが表れている。そこで生徒が班の仲間と作成したシナリオ（資料8）にみられるセリフを、一つ一つの語彙に着目して分析すれば、ロールプレイングを通して中学生が、家族をどのように捉えているのかが明らかにできると考えた。

図1は、ロールプレイングのシナリオにみられる中学生の家族観を示したものである。すなわち、中学生が家族に対してどのように見ているか、また、家族から自分はどのように見られているかについて表したものである。

中央に中学生を配置し、縦軸に「生涯発達軸」を置いて、自分とは異なる時間的な発達をもつ家族を配置した。自分が、軸の中心に位置し、自分から遠ざかるに従って、兄弟、姉妹、その外側に、親、その外側に祖父母を配置した。兄弟、姉妹を自分の近くに配置したのは、親からみての子、祖父母からみての孫という点では、中学生である自分と同じ立場であるとの考えからである。弟や妹、兄や姉、現在は中学生である自分も、いつの日か、親や祖父母の立場になっていくということである。

また、上下どちらの方向に対しても、家族を配置した。これは、ロールプレイングでは、様々な役割を演じることから、自分からみた家族の捉えと同時に、家族からみての自分の捉えが働くからである。つまり、そこには、自分以外の家族が、中学生である自分自身にどのように接するかという捉え方をみることができる。

資料8 平成18年度（現中2） ロールプレイングのシナリオ

場面：場面は3つの提示場面（掃除，食事，手伝い）より班で選択したもの。役割設定：班による話し合いで決定された

1の1	1の2	1の3	1の4
<p>【1班：掃除】 母：部屋を片付けなさい 中学女：今は、面倒くさい、後でやるからいいじゃん、出てってよ 長男兄：さっさと片付けろよ！ 弟：母さんと兄さんの話聞けよ 父：そんなに責めるな。早く片付けなさいよ。 弟：そんなに甘くしちゃ駄目だよ 母：そうだよ父さん 父：まあまあいいじゃないか...あまり怒りすぎても気分が悪くなるだけだ 中学女：分かった 片付ける 長男兄：反抗期だからって甘やかすなよ 母：毎日気持ちよくなるようにしなさいよ 中学女：はあ～い</p> <p>【2班：掃除】 母：こら！部屋片付けなさい 中学女（双子）：いや！面倒やし！ 父：片付けろって言ってるんだ！片付けなさい！ 中学女：だから嫌だって！いいじゃん うちの部屋なんだし 母：何？？その口の利き方！ペシッ！ 中学女：痛ってえ！何すんだよ！ざけんな 中学女：ゲーセン行こう～ 中学女：いいよいいよ行こう！ 父：何言ってるんだ！今お母さんが怒ってるだろ！</p>	<p>【1班：手伝い】 母「勉強してないなら手伝いなさい！」 中学男「嫌だね妹にやらせればいいやん」 母「あんたが一番上なんだから少しは手伝いなさいよ」 中学男「ちょっと上だからって何でもかんでも押し付けんといてよ」 父「何やってんだ」 妹「さっきから二人が喧嘩してんの」 祖母「お母さんの言う通りだから手伝いなさい」 中学男「部活もあったしいろいろ疲れてるんだよ」 父：「疲れても少しは手伝ったらどうだ！お母さんも家事やって疲れてるんだ」 祖母「まあ俺にもそういう時があったんだからそう責めるな。でも今思うと手伝うことは大切だぞ」 中学男「そうだね。ごめんなさい」 父「俺も手伝うかあ」 母「わぁ嬉しい！いつもこんなだったらいいのにな」</p> <p>【2班：食事】 中学兄：このおかず何？（まずそうに...） 弟：じゃあ俺も残す 父：お前家の飯も食えないっていうことは学校の給食も食えてないんだ！ 中学兄：いや残してないよ。みんなの前で残したらかっこ悪いからな</p>	<p>【1班：掃除】 父母：ガラッ期末終わったから片付けなさい！ 中学女：（漫画読みながら）面倒くさ！</p> <p>【2班：食事】 中学生：まずいまずい何だこのごはん こんなもん人が食うもんじゃない 親：じゃあもう食べるな 中学生：こんなもん食うか 親：バチ～ン 中学生：何すんだよ！ 親：何だ！その言い方は！ちゃんと食わんかアホ！ 中学生：もういいこんなもんいるか！ 兄弟：私も食わん、いるか 祖父母：まあまあお父さんもお母さんも倫太郎もなかよくやる！兄ちゃんも家族団らんて...</p> <p>【3班：掃除】 母 親：ちゃんと部屋片付けなさい！ 中学生：うっせえなあ！あとでやるっつてんだろ！ 父 親：なんじゃ親に向かってその態度は！ 高校兄：俺の部屋の方が汚いからいいじゃん。 父 親：お前は黙ってる！ 5歳の妹弟：パバママお姉ちゃんに怒るの</p>	<p>【1班：食事】 中学兄：このおかず何？おいしくなさそう。（嫌な顔をする） 父：食わず嫌いはいかん。 母：そんなだったら食べなくていい！ 中学兄：「じゃあ食わへん」 祖母：「そんなこと言わずに食べなさい」 弟：「え～ぼくもいらな～い」 父：（食べながら）「おお！うまいぞ！」 弟：「マジ？ぼく食べてみる...おいしい！」 中学兄：「じゃあ俺も...案外イケル」 母：「よかったあ」 祖母：「うんうん！」</p> <p>【2班：掃除】 母：部屋を片付けなさい 中学男：うるせえ 中学女：そうだようるせえんだよ。バ～カ 祖母：なんでそんなこと言ったゆうてみ！ 弟：なんでそんなこと言わなあかんのや 母：とにかく片付けなさい 中学女：なんでやねん 中学男：そうやそうや 祖母：掃除せんとごきぶり出るでえ 中学女：え～そんなの嫌に決まっとるやんけ～ 母：嫌なら部屋片付けなさい 中学男女：しょうがないなあ片付けるかあ</p>

<p>母：もうやめなさい。おじいちゃんも言ってあげて下さい。</p> <p>祖父：やめなさい。部屋は片付けるんだよ。</p> <p>中学女：だって面倒なんだもん</p> <p>祖父：我慢して片付けなさい。わかったかあ</p> <p>中学女：う～んわかった。これでいいだろう？</p> <p>母：いいよこうやっていうこと聞けばいいの！もぉ</p> <p>【3班：掃除】</p> <p>ナ：ある日…</p> <p>父母：部屋を片付けなさい！</p> <p>中学生：いきなり入るなよ！自分の部屋なんだから母さん達は関係ないだろ！</p> <p>母：まぁ！</p> <p>父：そんな言い方はないだろう！</p> <p>ナ：祖父が顔を出した。</p> <p>おじ：どうしたの？</p> <p>母：お父さん聞いてくださいよ！あの子ったら片付けもしないで…遊んでばっかなの…</p> <p>ナ：祖父もやってきた</p> <p>祖母：遊びたい気持ちは分かるけど部屋を片付けた方がいいと思うよ。</p> <p>中学生：は～いいい。分かったよ。</p> <p>【4班：手伝い】</p> <p>母：今日は一緒に昼食を作ろう</p> <p>中学姉：いや！</p> <p>母：たまには手伝ってよ！</p> <p>中学姉：うるさいな！面倒くさいんだよ！</p> <p>妹：じゃあ私が手伝う！</p> <p>父：こんな小さい子もできるのにお前はで</p>	<p>弟：俺も学校の給食をみんなの前で残すの かっこ悪いもの</p> <p>祖母：それならお母さんの作った物を残さないようにしなさいよ。</p> <p>【3班：食事】</p> <p>母：ごはんだよ～</p> <p>中学姉：このおかず何？まずそう。こんな の食べる気になるわけじゃないじゃん。</p> <p>父：そんなこと言わずに食べなさい。</p> <p>中学姉：嫌だって言ってんじゃん！まずい もんはまずいんだよ！！</p> <p>母：じゃあ何も食うんじゃねえ！！！！</p> <p>弟：僕が代わりに食べるよ。（間を空ける）</p> <p>父：うん， が食べれば解決するな。</p> <p>母：今日はこれでもいいけど食べ物は大切 だしお母さんだって一生懸命作ってるん だから次からはちゃんと食べるんだよ。</p> <p>中学姉：うん わかったて。</p> <p>弟：おいしい～</p> <p>ナレーター：めでたしめでたし</p> <p>【4班：手伝い】</p> <p>父：今日ちょっと忙しいから昼食の準備手 伝ってくれ！</p> <p>中学女：今，ゲームのいい所やでちょっと 待ってって！</p> <p>祖父：ゲームは後でもできるで早く手伝っ てやれ！</p> <p>中学女：弟にやらせといて！あいつ暇やで ～</p> <p>母：お姉ちゃんなんやで手伝ったれよ！</p> <p>中学女：ん～分かったわしょうがないなあ ～</p>	<p>やめて！</p> <p>父：お前らには関係ない！</p> <p>母：小さい子にまでそんなこと言わな いで下さい！</p> <p>父：はぁ！んなもん関係ねえだろっ！</p> <p>母：そんな人とはもう一緒に居れませ ん！</p> <p>父：あ！？</p> <p>子供達：やめて！！パパ！ママ！</p> <p>母：離婚です！</p> <p>父：あぁいいだろう！バカ！ （子供達が泣いたから離婚無しになって仲 良しになった。</p> <p>母：ちゃんと部屋片付けようね</p> <p>中学生：うん。ごめんなさい。</p> <p>【4班：食事】</p> <p>母：夕ご飯できたわよ～</p> <p>中学姉妹：これなに～おいしくなさそう～</p> <p>妹：私も食べたくない～</p> <p>祖父：お茶はうまいのぉ～</p> <p>父：しっかり食べなさい。</p> <p>妹：まっずら～</p> <p>父：入れ歯くれ！</p> <p>母：ちょっと待って下さい</p> <p>中学姉妹：うるさいなぁ～ちょっと黙って よ～</p> <p>父：何だ！その口の利き方は！</p> <p>妹：うるさいよー！</p> <p>母：もう食べなくていいわよ！</p> <p>祖父：まぁまぁそんなに怒らなくても…</p> <p>中学姉妹：あっそう！だったら食べないわ よ！</p> <p>母：（バシッ！叩いたふり）いい加減にし</p>	<p>【3班：手伝い】</p> <p>母：今日は一緒に昼食を作ろう 手伝っ て！</p> <p>中学生：めんどくせえなぁ</p> <p>姉：ゆうこと聞けや</p> <p>中学生：え～なんでや</p> <p>父親：手伝ってあげなさい</p> <p>弟：そうやて</p> <p>中学生：一人でやればいいやん</p> <p>父親：いい加減にしなさい</p> <p>中学生：だまれえや</p> <p>父：お父さんもやるからお前もやれ</p> <p>中学生：わかった</p> <p>母：今日の昼食はステーキだよ</p> <p>弟：たくさん食べよ</p> <p>弟の弟：うん（うなづく）</p> <p>母：おいしくつくるで～</p> <p>【4班：食事】</p> <p>母：お～い飯できたで～</p> <p>中学兄：この飯まずそうやん</p> <p>中学弟：Me Too</p> <p>父：食わないならカップラーメンでも食っ とれ！</p> <p>幼児妹：じゃあカップラーメン食べる</p> <p>小学弟：それなら買いに行行って来る</p> <p>母：自腹で払え</p> <p>小学弟：（二人から金徴収）はいお金</p> <p>幼児妹：おやすみー（逃げろー）</p> <p>中学弟：こんな料理食う位ならカップラ ーメンでいい</p> <p>父：図に乗るなよ</p> <p>母：頑張って作ったんやで食べやあ</p> <p>父：そうやで～</p>
--	---	---	---

<p>きないのか 弟：そうだそうだ、たまには手伝えよ。 中学姉：うるせえ、そんなこと言うならお前がやれよ。 父：なんだ。その口の利き方は！ 母：だったらもう手伝わなくていいわっ 中学姉：それなら最初から頼むなよ 妹：私やるよ 母：手伝ってくれるの？ 妹：うん だっていつもお母さん大変だもん 母：ありがとね 中学姉：しょうがないなあ。私も手伝うよ。 (お母さん大変でしょ？)今日のご飯何？ 弟：今日はカレーがいい！ 中学姉：じゃあ私 野菜切るね。毎日手伝えないかもしれないけどたまに手伝うから 母：うん たまには手伝ってね。</p> <p>【5班：掃除】 父：部屋片付けなさい 中学生：そのうちやる 母：早くしなさい 妹弟：しょうがないなあ～(黙って掃除) 父：弟や妹がやっているのに中学生が何やってんだ！ 中学男：無視 父：妹や弟の方がよっぽど大人だ！お前なんかもういい 中学生：しょうがない やるか</p> <p>【6班：食事】 中学女：今日のおかず何？まずそう...</p>	<p>父：お～ありがとう。さすが姉ちゃんだ～ お～い弟よお前も手伝えよ。姉ちゃん頑張るとるぞ！ 弟：え～ふんじゃあ手伝ったるわ 祖父：お～二人ともいい子じゃのう～ 母：いい昼食ができそうだわ二人ともありがとう 後でお小遣いあげるね～</p> <p>【5班：掃除】 ナレー：ここは 家の長男はいつもだからして部屋も片付けていませんでした。そこに母が部屋に入ってきました。 長男：きっ...きさまは母ちゃん 母：早く部屋片付けなさい！ 長男：おのれえ漫画の邪魔をしおってえ！ ナレー：そこへ妹が長男の部屋へ入ってきました。 妹：お兄ちゃん部屋汚いよ～早く片付けて！ ナレー：そこへ父が部屋に入ってきました。 父：Ｙ男！まだ部屋を片付けてないのか？これじゃあ彼女が出来んぞ～身の回りをきれいにすることはよい生活を送るために必要なことなんだぞ！だから少しずつ部屋を片付けていきなさい。 母：そうよお父さんの言う通りよ！ 長男：わかったあじゃあ部屋片付けるよ！ ナレー：こうして 家に平和な暮らしが戻ってきました。</p> <p>【6班：】 中学女：何これ？こんなもん食べたくない 弟：うん確かにまずそう～ 父：そんな文句言うなっ！</p>	<p>なさい！ 祖父：まあまあそんなことよりご飯を食べよ～ 父：さあ！お母さんの料理はおいしいよ～ 中学姉妹：は～い。お腹すいた～。</p> <p>【5班：食事】 母：ごはんだよ～ 子供：はあ～い みんなで言う 全員：「いただきます」 中学男：うわ～このおかず何やてまずそ～ 弟：うんマジおいしくなさそう～ 父：二人ともそんなこと言わない！ 兄弟：え～ 母：せっかく作ったんだから食べなさい 祖母：まあちょっとぐらい食べたら？？ 弟：兄ちゃんどうする？ 中学兄：俺は食わんけどお前食べやあ 母：そんなに食べたくなかったら食べんでええ 父：二人とも食べ物はずちゃんと食べんと大きくなれんぞ 兄弟：わかったよ食べればいいんでしょう ちょっとだけなちょっと 祖母：そやちょっとでも食べれば成長するんや 母：好き嫌いはあるかもしれんけど頑張って食べて 兄弟：ハイハイ</p> <p>【6班：掃除】 中学兄：ガガ... 母：うるさいなあ～何？やってるの？ ちょっと何？この部屋は？</p>	<p>父母以外：じゃあ仕方ないから食べるか</p> <p>【5班：食事】 妹：ご飯できたよ～ 祖父：おいM男を呼んで来い 父：早くこ～い。飯だぞ～ 中学生：わっ何このおかず？まずそお～！！きら～い！ 祖母：こらM男、何ゆつとるんじやい 祖父：いいではないか。誰でも好き嫌いはあるんじや 妹：でもそれっわがままじゃない？ 祖母：例えばまずそうでも作った人のことを考えてやらんと駄目じゃぞ 父：何ならお前が作ってみよ～この飯をよ 中学生：なんで俺が作んなきゃいけないんだよ 祖父：自分が実際に作ってみて文句言われたらお前はどう思うんじやい 中学生：ムカツクよそれは 妹：作った人も今そう思ってるんじゃないの？ 祖母：ほらほら謝るんじやよ 中学生：ごめんなさい 父親：早く食わね～と飯が冷めるぞ 妹：あ～もう冷めちゃった...でもいい 全員：いただきます。</p> <p>【6班：掃除】 母：部屋を片付けなさい 中学生：はあ～い わかった(そう言いながら全くやらない) 妹：兄の部屋に入ってきて</p>
--	---	---	--

<p>母：せっかく作ったのに... (泣き出す)  父：お前何てこと言うんだ！  祖父：そうだぞ～好き嫌いはあるにしてもきちんと食べなきゃ駄目じゃよ！  祖母：せっかくお母さんが作ってくれたんだから食べなきゃもったいないだろう？  中学女：食べられないものは食べられないんだよ！  祖父：昔は俺もそうじゃった... けど少しずつでいいから食べてごらん。</p>	<p>中学女：そんなこと言たってまずいもんはまずいだし...  母：そんなこと言わないでせっかく作ったのに... (悲しげな顔で泣く)  妹：泣かないで  父：まあ食ってみる (少し間をあける)  みんな：いただきます  弟妹：アッ意外とおいしいじゃん  母：そおっおホホホ.....！  父：結構うまいぞ！食ってみる！  中学女：じゃあ少しだけ食べてみるよ...  アッ意外とおいしいじゃん  母：嬉しいわ (うれし泣き)  中学女：これからも作ってね  弟妹：作ってね！  父：盛り上がったところで一発いきます  みんな：くっせえなあ～  めでたしめでたし</p>	<p>父：どうした？なんだこの部屋は早く片付けなさい！  中学兄：うるさいなあ後でやる  姉：ちょっと！今、電話中だから静かにして！  祖母：なんじゃ～  母：この子部屋片付けないんですよ～  祖母：そっかそっか。早く片付けたら？あんたもそんなに怒ることあらへん。あたしの時代はね...。爆弾が...  中学兄：何だよ...ばあちゃんその話うっとおしいなあ...しょうがねえなあ  父：だから早く片付けな！  母：片付けできたらご飯にするから  中学兄：はい はい。分かりましたよ。</p>	<p>もう、お母さん。あのバカ全然言うこと聞いてないじゃん  私が言ってやるよ！  妹：ドンドンドンドン (階段上がる)  ガラガラ パーン！  お兄ちゃんあんたもう中学生なんだからそんなダラダラして大丈夫なの？ろくに勉強できないくせに...</p>
--	--	---	---

そこで、「生涯発達軸」には、自分を中心とした上下どちらの方向にも同様に家族を配置し、他者から中学生への見方を加えた。白抜きの(中心より上部矢印方向)が、中学生が家族をどのように見ているかの気持ちを表し、また網掛けの(中心より下部矢印方向)が、家族が自分に対してどのように見ているかという気持ちを表したものである。

また、横軸に、「人間関係軸」を置いて、自分

から家族への見方、家族から自分への見方を配置した。家族一人ひとりが、自分と他者とのかわりを大切にしようとする考え方を中心より右側に置き、他者とのかわりよりも自分を中心とする考え方を中心よりも左側に配置した。

縦軸と横軸との交差により、4つの区分ができる。次に、それぞれの区分について、どのようなものなのかを、ロールプレイングにみられる傾向とかかわらせながら具体的に述べてみる。

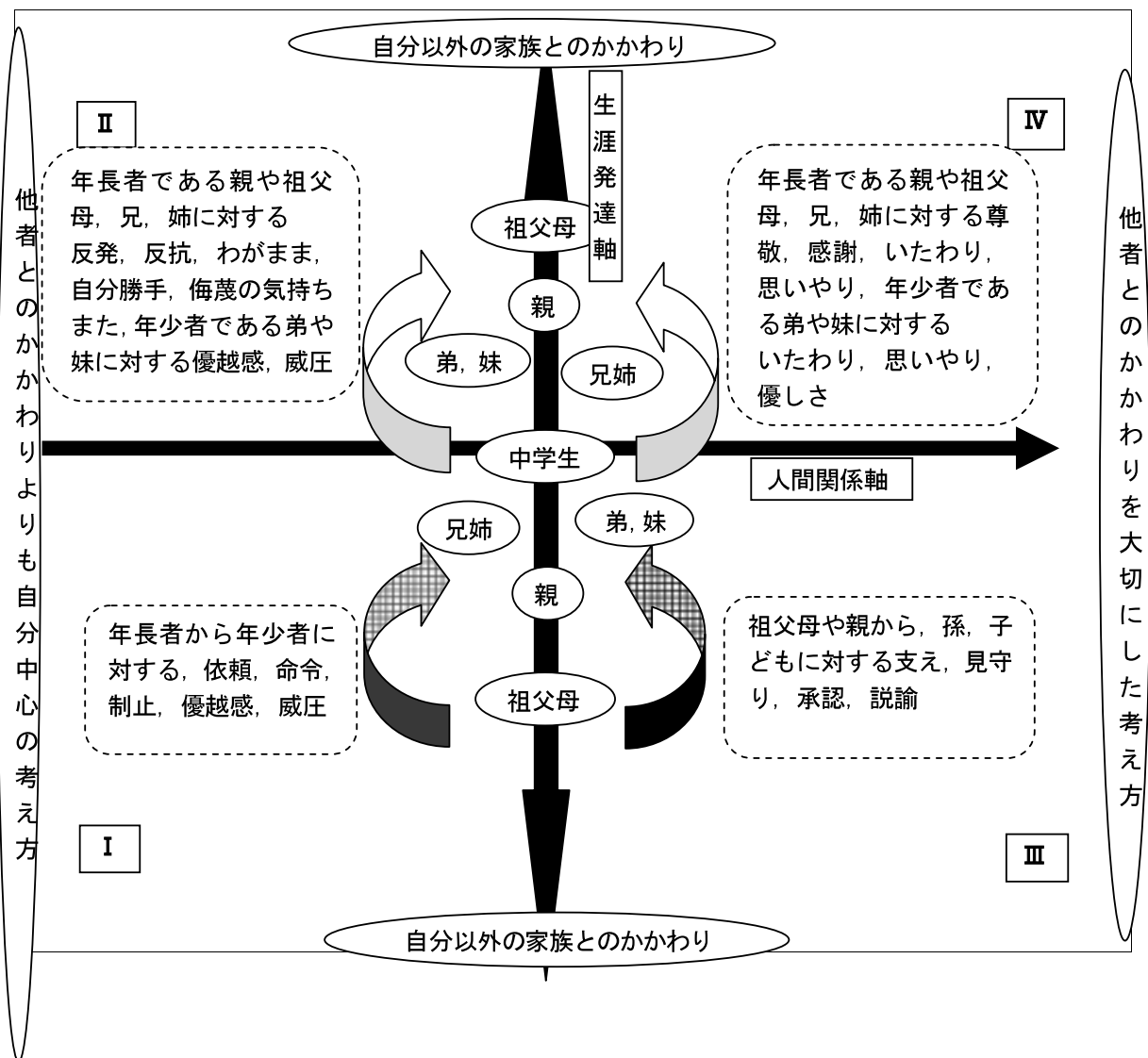


図1 ロールプレイングのシナリオにみられる中学生の家族観

区分Ⅰ：ロールプレイングの場面の始まりは、親から子への依頼であったり、小言であったりする。これは、年長者から年少者に対して行われることが多く、人間関係軸で捉えると、軸の左側に位置する。つまり、相手のことを考えるよりも自分の思いを中心とする考え方である。依頼、命令、制止、優越感、威圧の念を配置した。それに対して、言われた中学生は、反発したり反抗したりする。その時の気持ちが、区分Ⅰである。

区分Ⅱ：ここでは、他者からの依頼や忠告を受け入れようとするよりも、まず自分を中心とした考えを配置した。中学生の場合であれば、親や祖父母に対する、反発、反抗、侮蔑、威圧の念があると考えられる。

反抗や反発が、弱まったり、自らの言動を振り返って、改まったりするためには、何らかのきっかけが必要である。そのきっかけとなるものが、区分Ⅱの感情である。

区分Ⅲ：ここでは、年長者である親や祖父母が、子どもに対して、その成長を見守り、支えるという考え方を配置した。反発したり反抗したりする子どもの気持ちを考えながら、納得できるように言い聞かせたり、言い諭したりする立場も、この範疇とした。

ロールプレイングでは、中学生が反抗的な態度になる傾向がよくみられるが、それが収まるためにはこの区分Ⅲが展開の中に必要となってくる。そして、家族が互いに気持ちよく生活するためには、家族一人ひとりが相手のことを思いやる気持ちや言動が必要となる。それが区分Ⅲである。

区分Ⅳ：自分だけでなく、相手も気持ちよく生活するためには、相手のことをいたわり、思いやる気持ちが必要である。中学生の場合であれば、親や祖父母に対しては、その思いの他に、尊敬や感謝の念があると思われる。これは、年長者だけでなく、年少者に対しても同様の考えが生じる。

ロールプレイングの活動を通してねらうことは、家族関係をよりよくする方法を考えることである。そのためには、区分Ⅲ～Ⅳへの流れのあるシナリオが作成されることが重要であると考えられる。それは以下の理由からである。

中学生である生徒たちは、親の支えが大きな役割を果たす幼児期、児童期を経て、現在の青少年期を過ごしている。義務教育を締め括る3年間である中学校では、自分がこれまで、そして今現在

において、家族に支えられて生きてきたことや、家族の一員としてどのように家族とかかわっていくとよいのかを考えるだけでなく、これからの生涯を見通して、家族をみつめたり自分のあるべき姿を考えたりすることが、生活を主体的に営み創造していく上で大切であると考えられる。

ロールプレイングの活動においては、取り上げた場面において、役割を決めて、シナリオを作成して演じる。そこでは、(班によって構成は異なるが)自分よりも年少である弟や妹、年長である兄、姉、自分を育て見守り続けてくれている親や祖父母がいるという家族構成を考え、それぞれがどのような言動をとるかを、自分たちで創り出していく。つまり、中学生自身が自分とは異なる立場の家族の在り方を考えるのである。ここでは、図1にあるような中学生自身の家族に対する捉え方が基盤にある。

生涯の見通しをもって、家族の在り方を考えるためには、区分Ⅲの概念が表れたロールプレイングであることが大切であると思われる。とかく、親や祖父母に対して反発し、反抗的な態度をとることの多い中学生時期は、ロールプレイングのシナリオにおいてもその傾向がよくみられる。しかし、それで終始してしまっていては、今現在の段階である中学生時期の考えでしか家族をとらえることができず、生涯の見通しをもつての親や祖父母との関係や家族の在り方も、十分にとらえられずに終わってしまう。

そこで、これまでの実践(昨年)におけるシナリオに、どのような傾向がみられるのかを分析し、場面による傾向の違いを見極めることで、区分Ⅲの概念が十分に表れる場面設定を新たに提案し、その提案に基づいて授業実践し、検証していきたいと考えた。

#### 4) シナリオにみられるセリフの類型化

シナリオに見られるセリフを、どのように区分Ⅲ～Ⅳに類型化したのかを次頁、表4に示す。この類型をもとに、掃除、手伝い、食事場面のシナリオにみられる発言を分類し、推移を示したものが図2(掃除場面)、図3(手伝い場面)、図4(食事場面)である。

表4 シナリオにみられる具体的なセリフの類型化

区分	発言の特徴	シナリオにみられる発言の具体的な例	展開に果たす役割
	年長者から年少者に対する，依頼，命令，制止，優越感，威圧	「ちょっと～してくれないか？」 「お前の方が上なんだからやったらどうだ」 「何だ！その口の利き方は！」 「母さんの言うことが聞けないのか！」 「弟や妹がやっているのに，お前は何だ！」 「反抗期だからって甘やかすなよ！」	子の反発を助長する要因
	年長者である親や祖父母，兄，姉に対する反発，反抗，わがまま，自分勝手，侮蔑の気持ちまた，年少者である弟や妹に対する優越感，威圧	「うるさいな。関係ないだろ？」 「別にいいやんか」 「面倒くさいんだよ」 「今，忙しいから後にして」 「弟や妹の方が暇なんだから頼んでよ！」	子の反抗，反発の背景
	祖父母や親から，孫，子どもに対する支え，見守り，承認，説諭	「まあまあ，いいじゃないか，あまり怒りすぎても気分が悪くなるだけだ...」 「母さんの気持ちも考えたらどうだ？」	子の反発を軽減する要因
	年長者である親や祖父母，兄，姉に対する尊敬，感謝，いたわり，思いやり，年少者である弟や妹に対するいたわり，思いやり，優しさ	「うん，わかった...」 「そうするわ...」 「しょうがないなあ...，～するか...」 「そうだね。ごめんさい」 「これからは手伝うようにするよ...」	他者とのかかわりを自覚し，自分自身の変容につながる要因

## 5) シナリオにみられる発言の分析

## 掃除場面のシナリオの分析(図2)

「部屋が汚いから掃除しなさい」との親からの言いつけ(区分 )に対し，中学生が反発する(区分 )という発言の流れは，どの班にも共通してみられる様相であった。親への反発を作り出す背景には，中学生の中にある自己中心的な考えや，親からの命令や制約，また親以外の家族(兄弟姉妹や祖父母等)が，親の考えに賛同する立場をとる，といった反発を助長する要因が，どの班にもシナリオの前半部分にみられる。(実線太枠で囲んだ部分：区分 ， )

自己の変容や反抗姿勢の弱まりを生むためには，必ず，そのきっかけとなる発言がみられる。(点線太枠：区分 )その発言とは，中学生を尊重したり，説諭したりする発言であり，一方的な押し付けや命令の連続だけでは，中学生が自らの姿勢をかえることの難しさを表わしている。その発言が，最初の言いつけ役である親である場合もあるが，その多くはその発言の担い手が，祖父母であり，中学生にとっては，自分の親によって諭されるよりも，祖父母の世代によって諭される傾

向があることが，シナリオから伺うことができる。いうなれば，三世代の家族で，親子の問題を解決しようとする傾向があると言える。このことから，中学生にとっての祖父母は，親同様に，その発言を素直に聞くべき存在であるとの捉えがあると思われる。また，親の発言にも，自分たちから子へ言い聞かせるよりも，ワンクッションおいて，祖父母から孫へ言い聞かせるという方策をとろうとする傾向がある。例えば場面Bでは，母が「もうやめなさい。おじいちゃんも言ってあげて下さい。(発言10)と，子の反発を制止すると同時に，祖父母からの言い聞かせを依頼している発言がみられる。同様に，場面Gでは祖母の「なんじゃ～」(発言5)との問いかけに対して，母が「この子部屋片付けないんですよ～」(発言6)と答え，それに対して，祖父母がなだめるように「部屋を片付けたら？あんたもそんなに怒ることあらへん」(発言7)と，孫への言い聞かせと同時に，母親に対してもなだめるような発言をしている。祖父母が，親子間に入ることで，親も子も，心を落ち着けて考え直すことができる，そんな存在であるとの捉えがあると考えられる。



図2-1 掃除場面のシナリオにみられる発言の分類と、その推移

場面	発言の順番	区分Ⅰ	区分Ⅱ	区分Ⅲ						区分Ⅳ	登場人物	シナリオにみられる発言の具体的な内容 ●:子ども(中学生) ▲:親(父,母) □:兄弟,姉妹 ◇:祖父母 ※ 網掛けのセルは、中学生の変容のきっかけとなった発言、中学生の変容を表すものである。	
		子の反発, 反発を助長する要因	親から子への指示や依頼 命令 制止	自己中心的な考え 反抗	親から子への説諭 子供を尊重承認・	驚き 場の転換 他者の考えを仰ぐ	祖父母から孫への説諭	兄弟姉妹から親への意見	同世代間での意見の食い違い	反抗姿勢の弱まり 自己変容			子の変容
1組1班													
A	1		▲									母	部屋を片付けなさい
	2			●								中学女子	今は面倒くさい、後でやるからいいじゃん、出でてよ。
	3	□										長男兄	さっさと片付けろよ!
	4	□										弟	母さんと兄さんの話聞けよ。
	5				▲							父	そんなに責めるな。早く片付けなさいよ。
	6	□										弟	そんなに甘くしちゃ駄目だよ
	7	▲										母	そうだよ父さん
	8											父	まあまあいいじゃないか…あまり怒り過ぎても気分が悪くなるだけだ
	9										●	中学女子	分かった、片付ける
	10	□										長男兄	反抗期だからって甘やかすなよ
	11											母	毎日気持ちよくなるようにしなさいよ
	12										●	中学女子	はあ〜い
1組2班													
B	1		▲									母	こら! 部屋片付けなさい
	2			●								中学女子	(双子)いや! 面倒やし!
	3		▲									父	片付けろって言ってるんだ! 片付けなさい!
	4			●								中学女子	だから嫌だって! いいじゃん うちの部屋なんだし
	5		▲									母	何?? その口の利き方! ベシッ!
	6			●								中学女子	痛って! 何すんだよ! ざけんな!
	7			●								中学女子	〇〇ゲーセン行こう~
	8			●								中学女子	いいいいいいよ 行こう!
	9	▲										父	何言ってるんだ! 今お母さんがおこってるだろ!
	10	▲										母	もうやめなさい おじいちゃんも言ってあげて下さい。
	11											祖父	やめなさい。部屋は片付けるんだよ
	12				●							中学女子	だって面倒なんだもん
	13											祖父	我慢して片付けなさい。わかったかあ…
	14										●	中学女子	う〜んわかった。これでいいだろう?
	15											母	いいよこうやって言うこと聞けばいいの! もお
1組3班													
C	1		▲									父母	部屋を片付けなさい
	2			●								中学生	いきなり入るなよ! 自分の部屋なんだから母さん達は関係ないだろ!
	3											母	まあ!
	4		▲									父	そんな言い方はないだろう!
	5											祖父	どうしたの?
	6											母	お父さんも聞いて下さいよ。あの子ったら片付けもしないで遊んでばっかなの…
	7											祖母	遊びたい気持ちは分かるけど部屋を片付けた方がいいと思うよ
	8										●	中学生	は〜いはい 分かったよ。
1組5班													
D	1		▲									父	部屋片付けなさい
	2			●								中学生	そのうちやる
	3		▲									母	早くしなさい
	4										□	妹弟	しょうがないなあ~(黙って掃除する)
	5		▲									父	弟や妹がやっているのに中学生が何やってんだ!
	6										●	中学生	無視
	7		▲									父	妹や弟の方がよっぽど大人だ! お前なんかもういい
	8										●	中学生	しょうがない やるか

図2-2 掃除場面のシナリオにみられる発言の分類と、その推移



図3 手伝い場面のシナリオにみられる発言の分類と、その推移

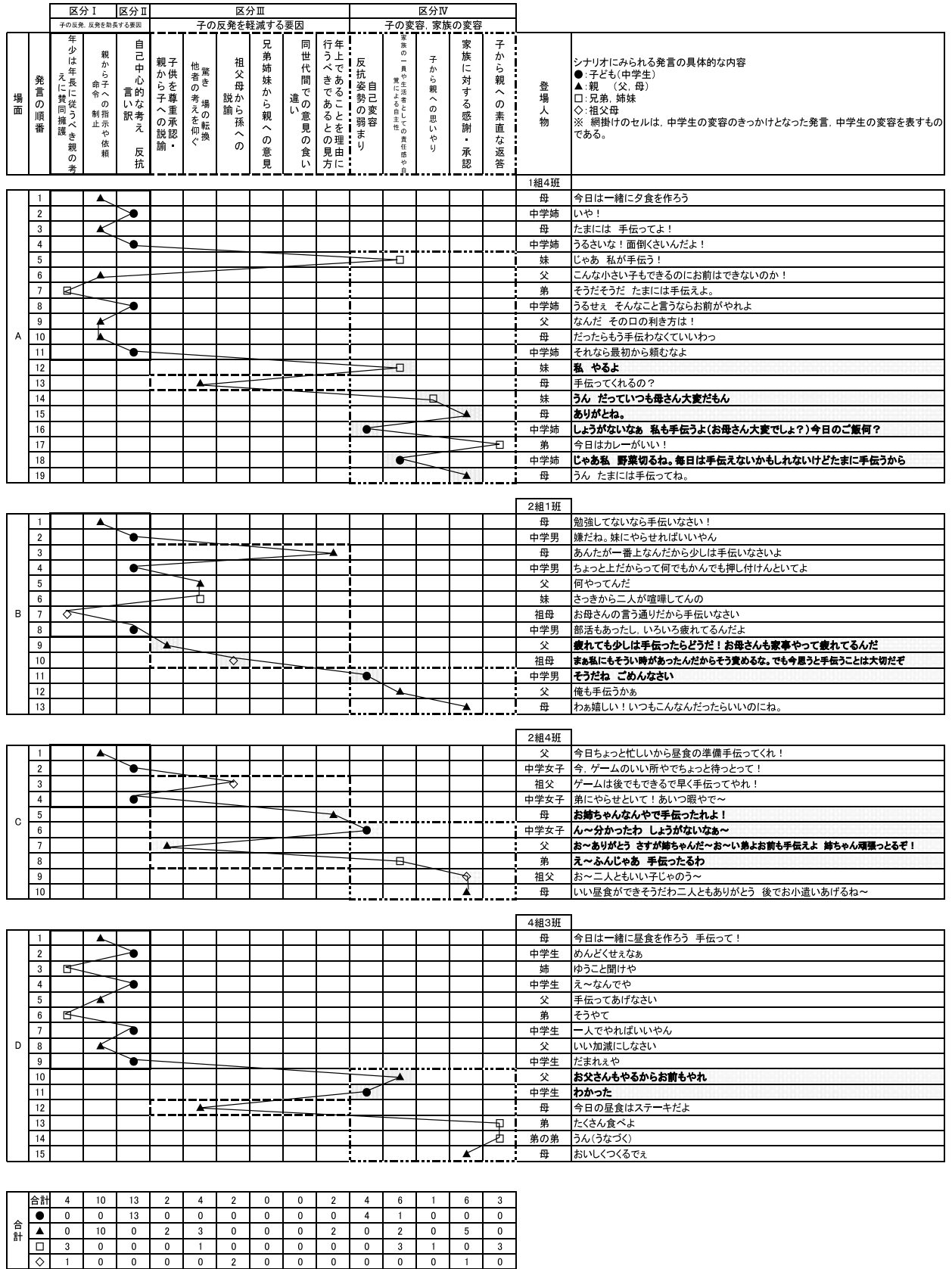
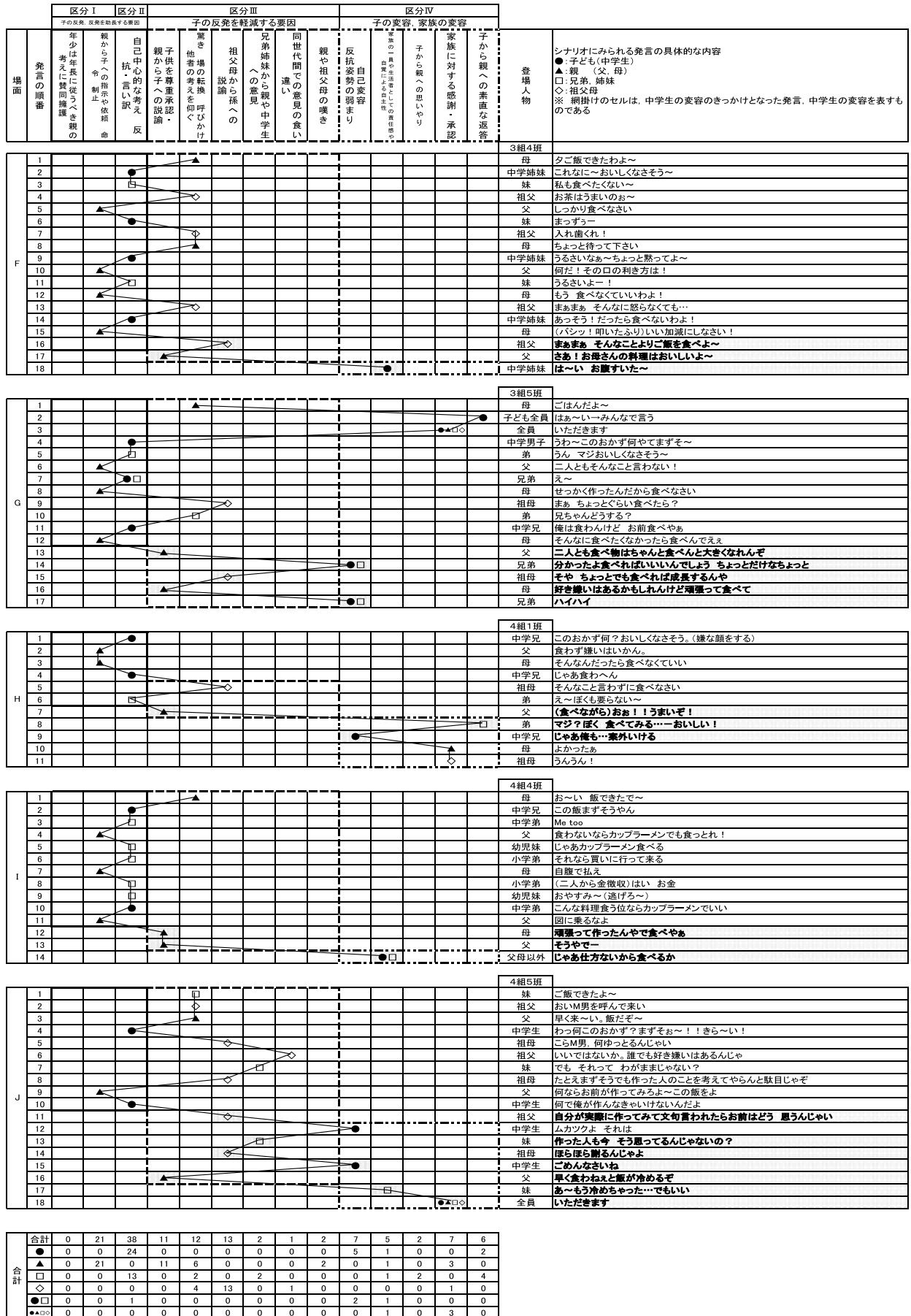


図4-1 食事場面のシナリオにみられる発言の分類と、その推移

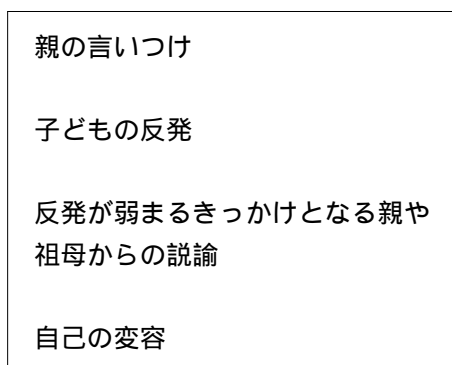
場面	発言の順番	区分Ⅰ		区分Ⅱ		区分Ⅲ				区分Ⅳ				登場人物	シナリオにみられる発言の具体的な内容 ●:子ども(中学生) ▲:親(父,母) □:兄弟,姉妹 ◇:祖父母 ※:網掛けのセルは、中学生の変容のきっかけとなった発言、中学生の変容を表すものである	
		子の反発、反発を助長する要因	親から子への指示や依頼、命令、制止	自己中心的な考え、反抗、言い訳	親から子への説諭	驚き、他者の考えを仰ぐ	場場の転換、呼びかけ	祖父母から孫への説諭	兄弟姉妹から親や中学生への意見	同世代間での意見の食い違い	親や祖父母の嘆き	自己変容	反抗姿勢の弱まり			変容の一人ひとりに与える責任感や自覚
A	1			●											1組6班 中学女子	今日のおかず何?まずそう...
	2														母	せつかく作ったのに...(泣き出す)
	3														父	お前 何てこと言うんだ!
	4														祖父	そうだぞ~好き嫌いはあるにしてもきちんと食べなきゃ駄目じゃよ!
	5														祖母	せつかくお母さんが作ってくれたんだから食べなきゃもったいないだろう?
	6														中学女子	食べられないものは食べられないんだよ!
	7														祖父	昔は俺もそうじゃった...だけど少しずついいから食べてごらん。
B	1			●											2組2班 中学兄	このおかず何?(まずそうに...)
	2														弟	じゃあ俺も残す
	3														父	お前 家の飯も食えないっていうことは学校の給食も食べてないんだ!
	4														中学兄	いや 残さないよ。みんなの前で残したら格好悪いからな
	5														弟	俺も学校の給食をみんなの前で残すの格好悪いもの
	6														祖母	それならお母さんの作った物を残さないようにしなさいよ。
C	1			●											2組3班 母	ごはんだよ~
	2														中学姉	このおかず何?まずそう。こんなの食べる気になるわけないじゃん。
	3														父	そんなこと言わずに食べなさい。
	4														中学姉	嫌だっていつてんじゃん!まずいものはまずいんだよ!!
	5														母	じゃあ何も食うんじゃねえ!!!
	6														弟	僕が代わりに食べるよ。(間を空ける)
	7														父	うん。〇〇が食べれば解決するな。
	8														母	今日はこれでもいいけど食べ物は大切だしお母さんだって一生懸命作ってるんだから次からはちゃんと食べんだよ。
	9														中学姉	うん わかったて。
	10														弟	おいしい~
	11														ナレーター	めでたしめでたし
D	1			●											2組6班 中学女子	何これ?こんなもん食べたくない
	2														弟	うん。確かにまずそう~
	3														父	そんな文句言うなっ!
	4														中学女子	そんなこと言わなくてまずいものはまずいだし...
	5														母	そんなこと言わないでせつかく作ったのに...(悲しげな顔で泣く)
	6														妹	泣かないで
	7														父	まあ食ってみろ(少し間をあげる)
	8														みんな	いただきます
	9														弟妹	アッ意外とおいしいじゃん
	10														母	そおっおホホホ.....!
	11														父	結構うまいぞ!食ってみろ!
	12														中学女子	じゃあ少しだけ食べてみるよ...アッ意外とおいしいじゃん
	13														母	嬉しいわ(うれし泣き)
	14														中学女子	これからも作ってね
	15														弟妹	作ってね!
	16														父	盛り上がったところで一発いきます
	17														みんな	くっせえなあ~ めでたしめでたし
E	1			●											3組2班 中学生	まずいまずい何だこのごはん、こんなもん人が食うもんじゃない
	2														親	じゃあ もう食べるな
	3														中学生	こんなもん食うか
	4														親	バチ~ン
	5														中学生	何すんだよ!
	6														親	何だ!その言い方は!ちゃんと食わんかアホ!
	7														中学生	もういい こんなもんいるか!
	8														兄弟	私も食わん いるか!
	9														祖父母	まあまあお父さんもお母さんも倫太郎も仲良くやろ!兄ちゃんも家族団らんで...

図4-2 食事場面のシナリオにみられる発言の分類と、その推移



「部屋を掃除しなさい」との親からの言いつけは、個人の部屋を与えられた以上、その部屋を管理するのは、その人自身であるという考え方が根底にあり、最終的に掃除するという中学生自身の変容には、きっかけとなる中学生以外の家族からの働きかけが必要である。よって、自分の役割を自覚し、自主的に掃除するというよりは、仕方無しに同意させられているという傾向がある。従って、区分 に類型化される発言は、少なくなり「わかった」「しょうがないなあ 片付けるかぁ」といった発言になる傾向が強い。

「中学生の時期は、子ども部屋という、自分の(兄弟姉妹と共同の場合もあり)部屋が確保されていることが多いと考えられる。部屋の掃除という行為は、個別の部屋を使うことのできる自由を与えられた権利に伴って発生する、その部屋を、自分自身で(子どもたち自身で)維持管理しなければならないという、責任義務が発生するという捉えが家族間に了解されている。そのため、親の「掃除しなさい」という言いつけは、当然のことであり、それに対して、反発はするものの、最終的には、子どもは掃除することに同意するという形で、反発が収束し、変容を生み出す流れとなる。すなわち、シナリオの流れは、下枠内ようになる。



掃除場面における自己の変容には、中学生自身が、家族のことを考えながら、自己の言動を見つめ直し改めようとしたというよりも、何らかの説論的なものがあって、それがきっかけとなってというものが多い。

手伝い場面のシナリオの分析(図3)

手伝い場面のシナリオにおいては、「～手伝って」という親からの依頼に対して、掃除場面と同様、中学生が反発するという発言の流れが、どの班のシナリオにもみられる。(区分 , 区分 )

しかし、掃除場面のシナリオとの大きく異なる点は、自己変容や、家族の一員や生活者としての責任感や自覚による自主性、子から親への思いやり、家族に関する感謝、子から親への素直な返答といった、自分を中心とする考え方よりも、他者とのかわりを大切に考える考え方である区分 に分類される発言の出現が多くみられることである。

これは、「手伝い」という行為が、「部屋を掃除するのは、その部屋を使う人が行うべきこと」というものとは異なり、家族の誰にでもかかわりの深いものであるためと考えられる。特に、食事の手伝いという点では、「手伝って」と依頼している家族の忙しさや大変さを思いやることは、ごく自然なことである。従って、仕方無しに同意するという傾向の強かった掃除場面とは異なり、手伝うことに同意するもとなる気持ちは、家族への思いやりや優しさがきっかけとなっていく傾向がみられる。

例えば、場面Aでは、手伝いを依頼された中学生は、最初は反発するものの(発言4)、妹が「私やるよ」(発言5)と、自主的に手伝おうとする。この妹は後に「うん だっていつも母さん大変だもん」(発言14)と、母親の大変さを思い、いたわる発言をしている。それに対して母親の「ありがとね」の感謝の言葉がある。手伝うことに同意した中学生は、「じゃあ私、野菜切るね。毎日は手伝えないかもしれないけどたまに手伝うから」(発言18)と、これからの行動にもつながる発言をしている。

また、手伝うことに同意するのは、子どもだけでないことがシナリオから捉えることができる。場面Bでは、父親が「俺も手伝うかぁ」(発言12)、場面Dでは、やはり父親が「お父さんもやるからお前もやれ」(発言10)との発言がみられる。場面の始まりは、親から子どもへの依頼であったにもかかわらず、最終的には、依頼された子どもだけでなく、父親や兄弟姉妹までも手伝うことに同意するという流れがあり、家族を思いやり、家事はみんなで分担しようとの思いが感じられるシナリオになっていることがわかる。そして、その思いにこたえるように、場面Aの母「うん、たまには手伝ってね」(発言19)、場面Bの母「わぁ嬉しい! いつもこんなんだたらいいのにね」(発言13)、場面Cの祖父「お～二人ともいい子じゃのう～」(発言9)、母「いい昼食ができそうだわ二人と

もありがとう」(発言10)、場面Dの母「おいしくつくるでえ」(発言15)と、A～Dの全てのシナリオにも、家族への感謝の気持ちが表れた発言がみられる。

区分Ⅰの発言は、4つのシナリオの合計で20回みられ(1シナリオ当たり5回)であり、掃除場面の平均1.6回と比較すると大きな違いがあることがわかる。

#### 食事場面のシナリオの分析(図4)

食事場面のシナリオの流れは、班による違いが大きく生じていることがわかる。A～Jまでの10場面のうち、区分Ⅰ、すなわち反抗していた中学生の変容がみられないグループが3グループみられる。親や祖父母からの説諭的な発言はみられるものの、そこで終わってしまっている。また、区分Ⅱの自己中心的な考え、反抗、言い訳に類別される発言が、他の掃除や手伝い場面と比べると、ずいぶん多くみられる。10場面中の区分Ⅱの発言の合計は38回であり、(中学生によるものが24回、兄弟姉妹によるものが13回、両者によるものが1回)食事に文句を言うのは、中学生だけでなく、子ども全員であるとの捉えがあると思われる。

「今日のおかず何?まずそう...」の自分自身の発言に対して、最終的に中学生自身が謝る展開であるシナリオは、場面Jであり、10場面中1場面だけである。このことは、食事場面における子どもからの文句は、自分のために食事を準備してくれた家族に悲しい思いをさせてしまったと、反省する出来事だとは、捉えにくいことであると思われる。場面Dの父の「結構うまいぞ食べてみる」(発言11)や場面Hの父「(食べながら)おっ!うまいぞ!」(発言7)がきっかけとなって、子どもが食べてみるという流れがあり、これは、食べようとしなないことに対して、子ども自身が問題意識を感じているわけではなく、単なる食わず嫌いのような見方があり、食べてみたら意外と食べることができたという展開で終わらせている。

また、その他のシナリオについては、場面Gの母「好き嫌いはあるかもしれんけど頑張って食べて」(発言16)に対して、兄弟「ハイハイ」(発言17)や、場面Iの母「頑張って作ったんやで食べやあ」(発言12)、その後の父「そうやで~」(発言13)に対して、父母以外「じゃあ仕方ないから食べるか」(発言14)にあるように、食べない自分自身が、何とか食べることに同意するという

変容のシナリオがみられる。

これは、食事を整えてくれた家族を思ってという深まりに立った変容というよりは、自分自身で納得しての変容といえるもので、区分Ⅱの発言が10場面の合計で27回(1シナリオ当たり2.7回)と、手伝い場面と比較しても大きな違いがあることが分かる。

設定場面の違いとシナリオとの関係

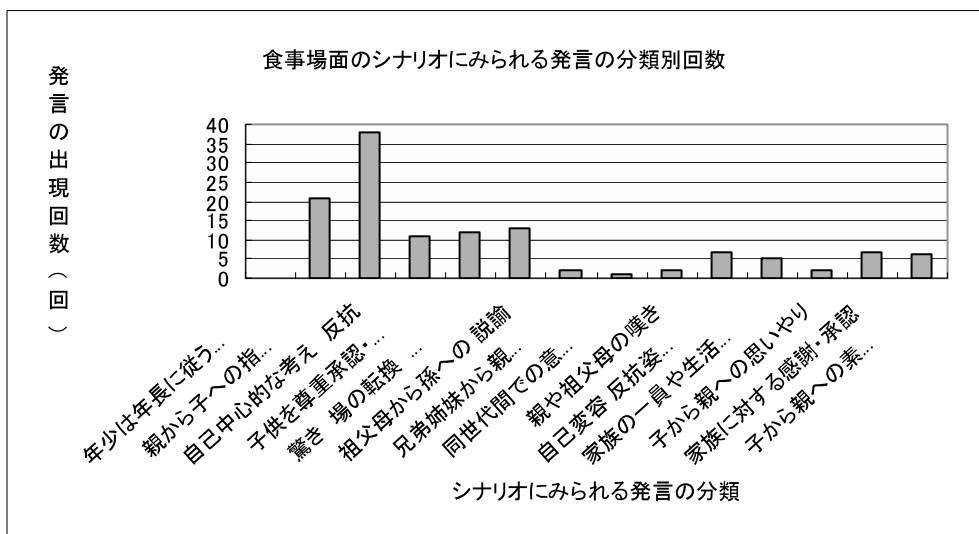
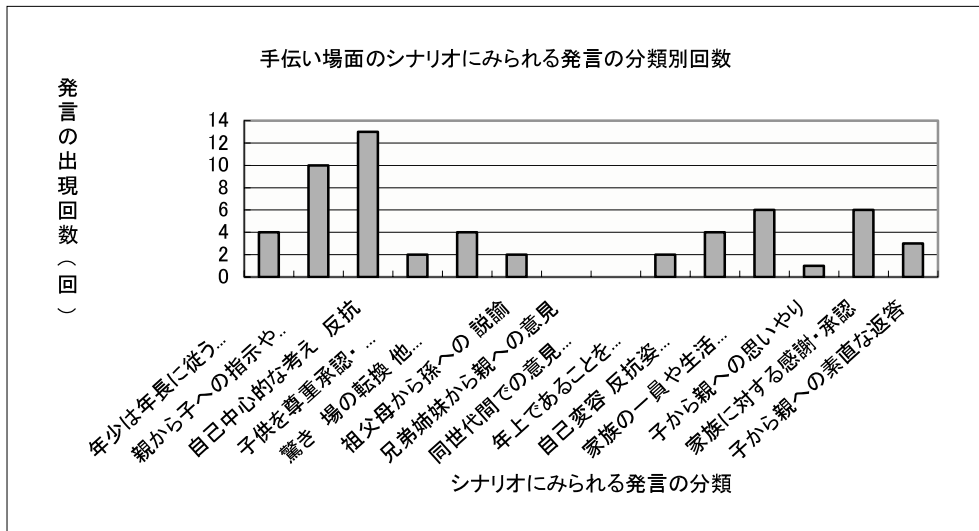
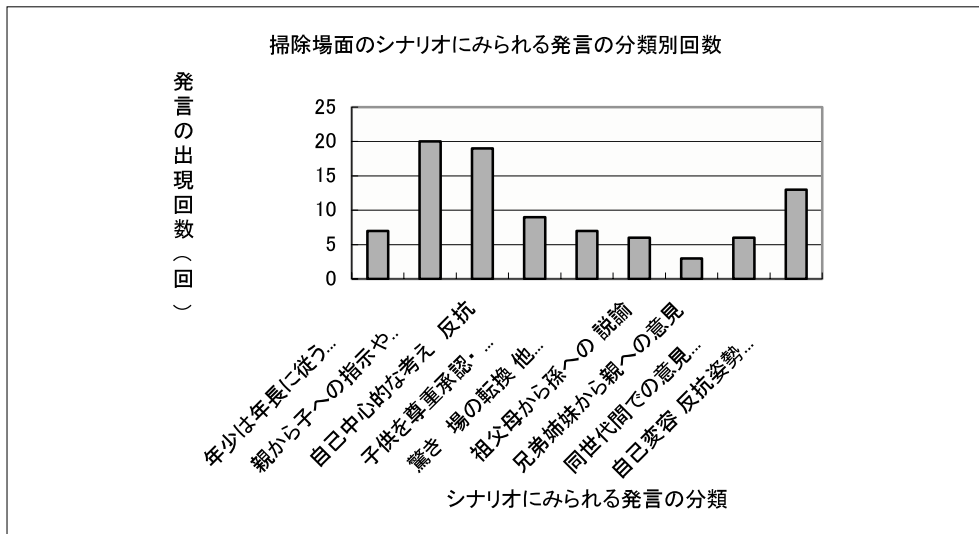


図5 設定場面の違いと、シナリオにみられる発言の分類別回数



図5は、設定場面による、シナリオにみられる発言の分類別回数の違いを表したものである。設定場面により、最も大きく異なるのは、区分に分類される発言の出現回数である。

掃除場面では、自己変容、反抗姿勢の弱まりはみられるものの、家族の一員としての責任感や自覚による自主性、家族に対する感謝といった、家族とのかかわりを大切にしたいと考えがみられなかった。これは、部屋を掃除する行為が、言われた本人の責任において行うものであり、家族とのかかわりをもった展開にはなりにくいと言える。

手伝い場面では、区分に分類される発言が、3場面のうちで最も多くみられた。反対に区分の親や祖父母からの説諭的な発言は、3場面のうちで最も少なく、誰かに言われて変容するというよりも、自ら家族のことを思いやってという変容が多いことが伺われる。これは、手伝う行為が食事であり、食事を整えることは家族の誰しもにかかわる行為であるとの認識が、働くためであると考えられる。つまり、家族の誰もが、家族の一員として、食事作りを担っている人の大変さを思いやって手伝うべきであるとの思いが、シナリオの展開の中に表れる場面であると言える。

食事場面は、自己中心的な考えが、3場面のうちで最も多い。これは、中学生だけでなく、その兄弟姉妹も同調しての反抗が、シナリオの展開においてみられるからである。また、中学生にとって、食事の内容に文句を言う行為は、反省すべきこととの認識が薄く、ごくありふれた何気ない行動であるとの思いも根底にあると思われる。そのため、区分の発言が多くなったと考えられる。

#### 4. まとめ

本研究では、中学校技術・家庭科（家庭分野）「家族と家庭生活」の学習におけるロールプレイングについて、学習指導要領と教科書での取り扱いの変遷、ロールプレイングを取り入れた授業実践について、設定場面ごとに、シナリオをもとにした比較分析をおこなった。

この結果、次のことが明らかとなった。

- ・ロールプレイングの学習活動は、「家庭生活」の領域が新設された平成元年改訂時に、この領域における実践的・体験的学習をめざすためのものとして取り入れられた活動であるが、教科

書では、改訂後すぐに取り入れられたわけではなく、ロールプレイングの活動の意味や、具体的な手順が示されたのは、東京書籍で平成13年検定済みの教科書から、開隆堂で平成17年検定済みの教科書からと、家庭生活の領域が新設されてから、10年以上かかっている。このことから、ロールプレイングの指導方法が十分に確立されていないと思われる。

- ・学習指導要領には、「生徒の生活にかかわりの深い課題を取り上げ」とあり、教科書でも、イラストから、その場面を捉えやすくしてあるが、作成したシナリオは、設定場面による違いが大きくみられる。掃除、手伝い、食事の3場面の展開は、ほとんどが、区分、区分、区分の流れをもつが、設定場面によっては、区分に類別される発言が少ないものもみられ、ロールプレイングの活動を通して学習を深まりのあるものにしていくためには、区分、すなわち、家族とのかかわりを大切にしたい考えが多くみられるような場面設定を行う必要がある。
- ・今現在の中学生としての立場だけでなく、これまでの自分自身の成長や、これからの自分自身の在り方に目を向けられるロールプレイングであるためには、次の要素が設定場面の中に盛り込まれることが必要である。「家族全員にかかわる問題であること」「家族の構成や状態の変化が見通せるものであること」「家族をめぐる今日的な課題を盛り込むようなものであること」
- ・今後は、上記の要素を盛り込んだ場面設定の在り方を究明し、題材全体を通して、家族とのかかわりが深まっていくような題材開発、授業実践を行うことで、将来の生活への展望をもったロールプレイングの在り方を明らかにしたい。

#### 文献

- 1) レイモンド J. コルシニ 著 / 金子 賢 監訳；心理療法に生かすロールプレイング・マニュアル 金子書房（2004年）6, 7頁
- 2) レイモンド J. コルシニ 著 / 金子 賢 監訳；心理療法に生かすロールプレイング・マニュアル 金子書房（2004年）用語についての覚書 Xiii
- 3) 文部省；中学校学習指導要領（平成10年12月）解説 技術・家庭編（平成11年9月）68頁

- 4) 津止登喜江・浅見匡・河野公子 編著；中学校教育課程の解説 技術・家庭 第一法規 107, 108頁
- 5) 文部省：中学校学習指導要領(平成10年12月)解説 技術・家庭編 (平成11年9月) 4, 5頁
- 6) 開隆堂；文部省検定済教科書 技術・家庭 技家703 (平成4年検定済み) 56頁
- 7) 東京書籍；文部省検定済教科書 技術・家庭 技家701 (平成4年検定済み)
- 8) 開隆堂；文部省検定済教科書 技術・家庭 技家707 (平成8年検定済み) 92, 93頁
- 9) 東京書籍；文部省検定済教科書 技術・家庭 技家705 (平成8年検定済み)
- 10) 開隆堂；文部科学省検定済教科書 技術・家庭 技家702 (平成13年検定済み) 164~166頁
- 11) 東京書籍；文部科学省検定済教科書 技術・家庭 技家701 (平成13年検定済み) 172, 173頁
- 12) 開隆堂；文部科学省検定済教科書 技術・家庭 技家704 (平成17年検定済み) 182, 183頁
- 13) 東京書籍；文部科学省検定済教科書 技術・家庭 技家703 (平成17年検定済み) 176頁